日本学生支援機構
障害学生支援専門テーマ別セミナー【地域連携】
平成30年１１月9日

「教・福・医・労・行」連携型支援の模索
～岐阜県の事例を中心に～

学生総合支援センター 障害学生支援ルーム
高等教育アクセシビリティプラットフォーム
特定准教授 舩越高樹
FUNAKOSHI Koju

1:大学における障害学生支援の流れ

Ⅰ期 （高校３年～大学1年前期）	Ⅱ期 （大学1年後期～３年）	Ⅲ期 （大学３年後期～４年）	Ⅳ期 （卒業後）
事前相談 大学適応	大学生活 学業	ゼミ・卒論 就職活動	就職活動 職場適応
修学支援		就職支援	職場 定着支援
パーソナルサポート （個別面談） 集団活動 合理的配慮の探求	自己理解 他者理解 環境調整	自己PR エントリーシート作成 強みを生かした職種選択 インターンシップ 職場開拓	自己理解 他者理解 環境調整
			フォローアップ面談 ハローワーク・企業と連携 QOLの向上 リフレッシュ 心身の健康への意識

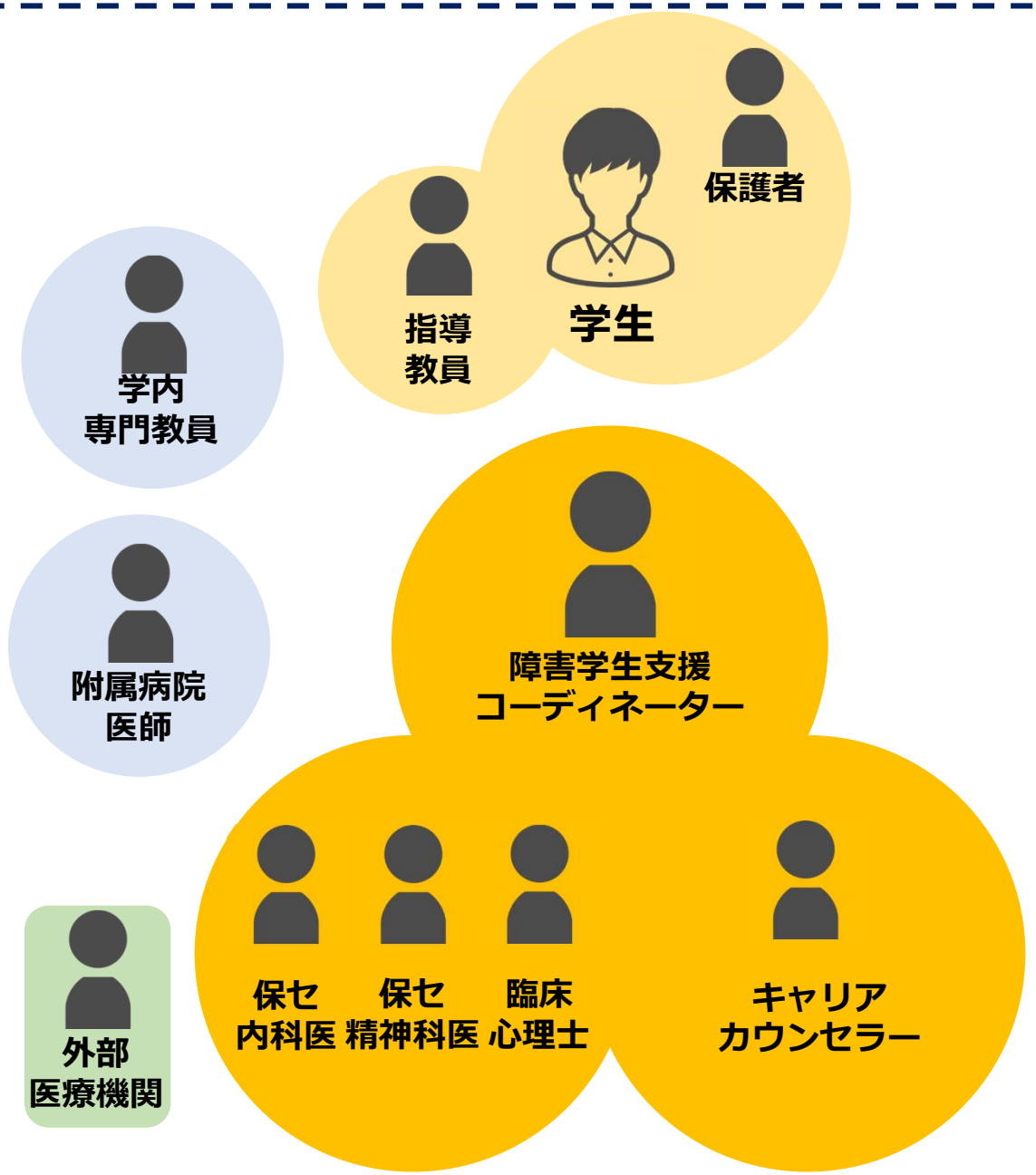
高大連携

大学支援機関が実施

就労移行支援機関等社会資源が実施

富山大学 日下部貴史 氏
の資料を参考に作成

2:障害学生支援における学内外ネットワーク～岐阜県



- 発達障害者支援センター
のぞみ
- ハローワーク
- 障害者職業センター
- 就業・生活支援センター
- 就労移行支援事業所
- ジンチャレ！
（岐阜県総合人材チャレンジセンター）
- 若者サポートセンター

3:学内の支援対応モデル

学生支援の３階層モデル(苫米地レポートより一部抜粋)

第１層
日常的学生支援

- 事務対応
- 研究・修学指導

第２層
制度化された学生支援

- 相談(支援)員
- 相談室員

第３層
専門的学生支援

- 学生相談
- 障害学生支援

日本学生支援機構(2007)「大学における学生相談体制の充実方策について―「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」―」
（座長：苫米地憲昭氏・国際基督教大学カウンセリングセンター長）

４:岐阜大学で実装した支援階層モデル

基礎的環境整備

ピア・サポートシステム
（学生同士の支え合い活動）

学生同士の多様性を認め合う風土
＆支援を受けやすくする風土

UNIVERSAL DESIGN FOR HIGHER EDUCATION
高等教育機関におけるユニバーサルデザイン

個のニーズへの対応

修学上の合理的配慮の提供

継続的な心理カウンセリング
＆ Social Skill Training

セルフ
アドボカシー
の強化

５:岐阜大学で実装した支援階層モデル

個別対応だけでなく、支援を受け入れる風土づくりもカギに

初年次セミナー＝全学部１年生対象

①健康管理について
②学生相談について
③障害学生支援や合理的配慮について
④防災の話

①障害の社会モデルと障害者差別解消法について
②合理的配慮の対象
③合理的配慮を受けるための相談と手続き方法
④周囲で支援を受けている学生への理解と協力

6 :いわゆるグレーゾーンの学生支援を視野に入れた取り組み

A :グループセミナーの実施（5名～20名）

＝グレーゾーンの学生を支援機関につなげる試み（自由参加）

H27年度

「スキルアップセミナー」

《就職支援室》＋《保健管理センター》＋《サポートルーム》共同企画

・コミュニケーション力向上（聞く力、話す力、質疑応答の仕方）

・SST(Social Skills Training)を実施、社会適応力の向上を目指す

H28年度

「いこまいセミナー」

H29年度

《保健管理センター》＋《サポートルーム》＋《就職支援室》＋《医学教育開発研究センター》＋《留学生センター》＋《アカデミック・コア（教育推進・学生支援機構 修学支援部門）》＋《男女共同参画室》

・学生の交流の場

・日常生活や就職活動に役立つスキルの獲得

・学生相談・障害学生支援の広報

・気になる学生の早期発見・介入

支援が必要と考えられる
障害が疑われる

岐阜大学教育推進・学生支援機構年報　第３号
「いこまいセミナーを通した学生支援の取り組み多部局協働授業外グループプログラムの実践」堀田亮，舩越高樹，川上ちひろ(2017)

7 :地域の取り組みと連動させた高い専門性を求められる支援

B :SST（Social Skills Training）講座の実施（6名以下）

＝支援を実施している学生限定（教員が参加を促す）

担当《保健管理センター：臨床心理士》＋《サポートルーム教員：特別支援教育》

コミュニケーション力向上（聞く力、話す力、質疑応答の仕方）
SST(Social Skills Training)の実施により社会適応力の向上を目指す。

※ 大学生活における具体的な場面での適切な行動様式モデルを体験的に学習する。

※「岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム等構築事業」と連動
→発達障害による支援ニーズのある人向けの自己理解促進プログラム

8：岐阜県における「教・福・医・労・行」連携型支援の模索①

岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム等構築事業

「発達障害専門プログラムパッケージ実施報告書」を参考

平成26年度 厚生労働省 障害者総合福祉推進事業

事業責任者：昭和大学発達障害医療研究所（加藤進昌 医師）

岐阜県発達障害者支援センター「のぞみ」

教育 ⇔ 福祉 ⇔ 医療 ⇔ 就労 ⇔ 行政

9 :岐阜県における「教・福・医・労・行」連携型支援の模索②

岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム等構築事業
～岐阜県発達障害者支援センター～

■主に県内の医療，教育，福祉，労働の分野をスーパーバイザー・研究員とし，発達障がい分野における青年期支援を県内に普及することを目的とする。

青年期（高卒以上）の来談者から参加者を募集

過去の検査結果の情報確認 ＋ 成人期を意識したアセスメントを実施

WAIS-Ⅲ（知能検査），AASP（感覚），MSPA（特性），GSES（自己効力感）
Vineland-Ⅱ（適応行動），BDI-Ⅱ（精神健康）

月に一度（１年間）自立支援プログラムを実施

①コミュニケーション ②自己理解 ③アサーション ④健康管理
⑤コーピングスキル（ストレス対処法） など

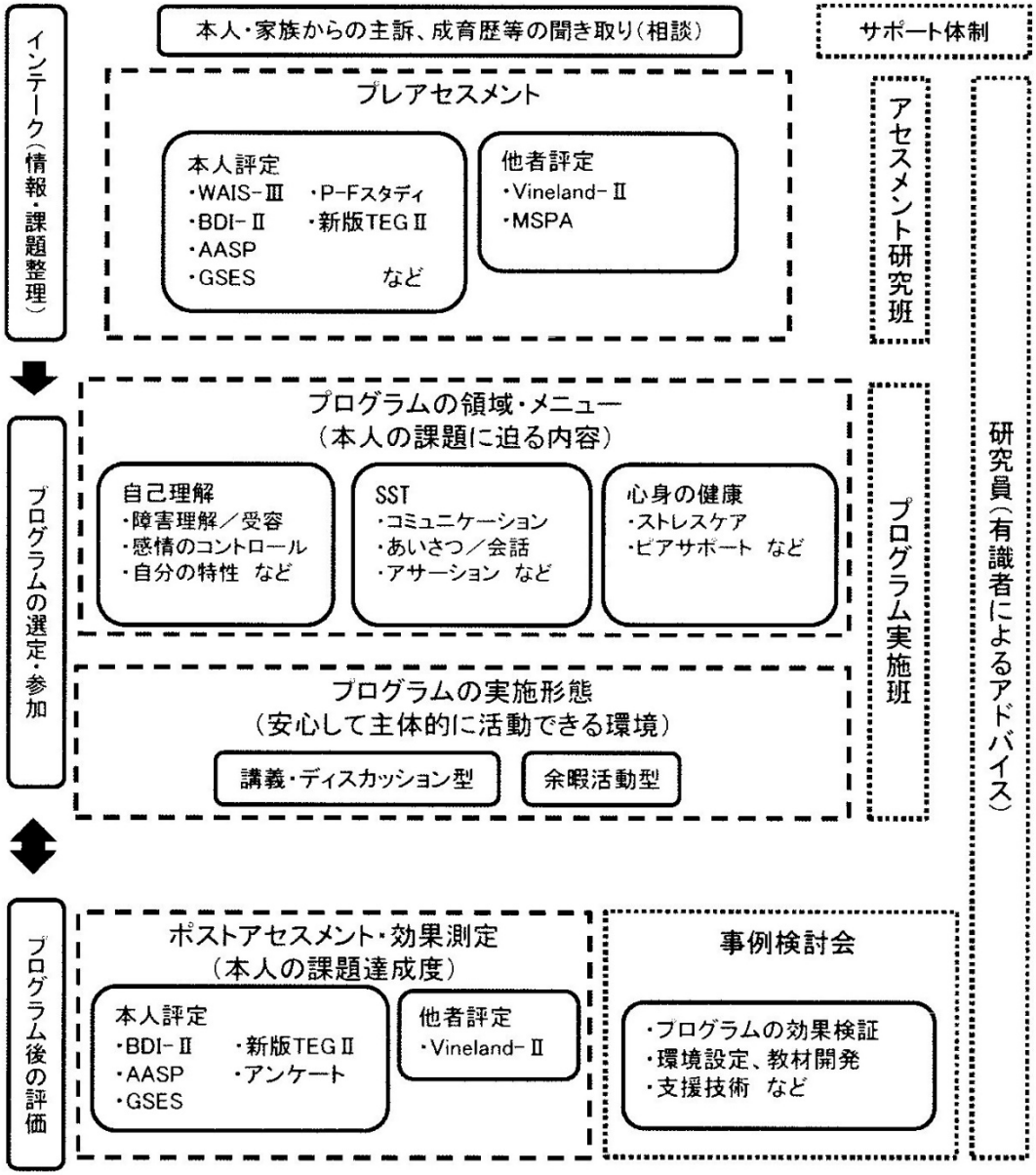
↓

センター職員，スーパーバイザー，研究員で内容の検討

効果測定

☆ 県内各所で実施できるプログラムを開発 ☆

9:岐阜県における「教・福・医・労・行」連携型支援の模索③



岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム研究会
岐阜県障害福祉課・発達障害者支援センターのぞみ

「平成29年度岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム研究会研究報告書」

より

9:岐阜県における「教・福・医・労・行」連携型支援の模索④

		プレアセスメント	ポストアセスメント
自己評定	知的能力	ＷＡＩＳ-Ⅲ	—
	感覚	ＡＡＳＰ	ＡＡＳＰ
	自己効力感	ＧＳＥＳ	ＧＳＥＳ
	抑うつ	ＢＤＩ-Ⅱ	ＢＤＩ-Ⅱ
	性格	Ｐ-Ｆスタディ 新版ＴＥＧⅡ	新版ＴＥＧⅡ
他者評定	適応行動	Vineland-Ⅱ	Vineland-Ⅱ
	発達特性	ＭＳＰＡ	—

岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム研究会
岐阜県障害福祉課・発達障害者支援センターのぞみ

「平成29年度岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム研究会研究報告書」
より

9:岐阜県における「教・福・医・労・行」連携型支援の模⑤

プログラム名	内容	基準
コミュニケーションについて	「コミュニケーションについて」 コミュニケーションの基本的形態（言語・非言語等）（昭和大プログラム）	・MSPA『コミュニケーション』2.5以上 ・Vineland-Ⅱ『コミュニケーション』やや低い以下
誰かに相談する・援助を求める	相談の仕方、援助の求め方（相談スキル・援助要求スキル）	
感謝と謝罪を考える	感謝の伝え方、どんな時に感謝をする？、謝り方、表情、感謝・謝罪を伝えられたときの返し方　等	
自分らしさとは何か	「得意なこと」「まあまあできること」「苦手なこと」「絶対に難しいこと」「好きなこと・趣味」「こだわり」・・・	MSPA 2.5以上が３つ以上
自分の感覚を整理する	自分の感覚・他者の感覚を知る、不器用について、感覚の特性に対する工夫・アイディア・・・予防	・MSPA『感覚』2.5以上 ・AASP特記事項あり
ストレスと向き合う	自分自身がどのようなことでストレスを感じるかを知る自分に合ったストレス対処法を考える。 他者のストレス対処法を知る（昭和大プログラム）	・Vineland-Ⅱ『不適応行動』やや高い以上 ・BDI軽度以上
感情と付き合う	自分の感情の範囲を考え、他者の感情の範囲の違いを知る、感情が高ぶりとの付き合い方のアイディア・・・予防	・Vineland-Ⅱ『不適応行動』の外在化行動やや高い以上 ・『コーピングスキル』やや低い以下
日常生活を営むための力　～家の中編～	家事（掃除・洗濯・整理）、食事（料理）、風呂、歯磨き・洗顔　等	・Vineland-Ⅱ『家事』やや低い以下
日常生活を営むための力　～外出編～	マナー、身だしなみ、サバイバルスキル（お金、時間、移動手段、看板・目印・・・）等	・Vineland-Ⅱ『地域生活』『遊びと余暇』やや低い以下
自分と家族	自分にとっての“家族”について整理する。 様々な形態があり、大人の自分と家族の距離感の多様さを考える。	希望
仕事とは何か、働くとは何か	自分にとっての“仕事”　“働く”とはどういうことなのか。自分の中であらためて整理し、今後の人生における就労について考える。	希望

岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム研究会
岐阜県障害福祉課・発達障害者支援センターのぞみ

「平成29年度岐阜県青年期発達障がい自立支援プログラム研究会研究報告書」

より

参考：合宿形式による短期集中型自己理解促進プログラム

「青年期の自閉症スペクトラム障害を対象とした集中型「自己理解」プログラム」

山口大学教育学部附属教育実践総合センター
木谷秀勝 らによる山口県下関市を中心とした
取り組み

教育実践総合センター研究紀要
= Bulletin of the Integrated Center for Educational Research and Training (41),
63-70, 2016